



プラン4)

記入日	西暦 2020 年 1 月 10 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	UR 都市機構 (尾山台団地)
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	⑮
タイトル	学んで！体験して！楽しもう！！女性限定企画 第 6 回「みんなの防災カフェ」“在宅避難や避難所生活で私たちが不安に思うこと、困ること” “女性にとっての在宅避難のメリットは”
実践担当者のお名前	聖学院大学 学生ボランティア団体「STEP.」

実践にかかった金額	5000 円未満
実践の準備にかかった時間	1 週間
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 12 月 1 日 10 時～11 時 30 分
実践の所要時間	1.5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	3 人
防災教育の対象者の属性	地域住民・女性
防災教育の対象者の人数	約 20 人
実践を行った都道府県と市区町村	埼玉県上尾市
実践を行った具体的な場所	尾山台団地みんなの広場
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	準備したもの：模造紙、ペン等文房具、お茶・お菓子

達成目標	① 女性といっても様々な状況の方がいる中で（子育て中・共働き・高齢者・障がい者等）、発災時、避難所で不安に思うことや困ることを考える。 ② 私たちだからこそ、女性ならではのできることを考える。	
どの力を身につけよう としましたか？	知識・技能	全く 少し <u>かなり</u> 大いに
	思考力・判断力・表現力	全く 少し <u>かなり</u> <u>大いに</u>
	学びに向かう力・人間性	全く 少し <u>かなり</u> <u>大いに</u>



実践内容・方法	①日ごろ、団地のイベント等にボランティアとして参加して下さる学生に協力いただき、ファシリテーターをお願いする。女性特有の問題や忌憚のない意見を言えるよう、運営側も参加者も女性限定とした。 ②避難所で不安に思うこと等を付箋に書き、グループごとで発表。 ③通常のアンケートの自由意見欄を、ファシリテーターを担当いただいた学生向けのメッセージ欄とし、今後の活動に役立てていただく。	
		
得られた成果	女性ならではの、トイレや授乳スペース、衛生面・プライバシーに関わる不安要素が多く抽出された。避難所運営では、男性リーダだけでなく、女性への役割分担も必要であるとの貴重な意見が出た。また、在宅避難にメリットを感じる方が多くあったが、一方で、独居の女性は一人でいることに不安を抱えていることが確認できた。	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	全く 少し かなり 大いに
	思考力・判断力・表現力	全く 少し かなり 大いに
	学びに向かう力・人間性	全く 少し かなり 大いに
課題・苦労・工夫	女子学生をファシリテーターに迎えることで、ワークショップの雰囲気は優しくなり好評を得た。女性のみという企画で、多くの意見が出された。	



★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について

1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください

関係者の名前・団体名	
関係者の説明	
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください

伝えたい相手	集合住宅の自主防災会
伝えたい内容	発災時に女性の力は重要です。地域の情報もたくさん持ち合わせており、新たな関係性の構築が期待できるワークショップ。